

## 骨粗鬆症⑦ 骨粗鬆症による骨折

### 橈骨遠位端骨折

橈骨遠位端骨折（手関節の骨折）は骨粗鬆症で生じやすい骨折のひとつです。この骨折は転倒時に手をつくことができる（比較的バランス能力の高い）方に生じますので、閉経期 50 歳前後以降の女性ぐらいから発生します。また年齢が高くなっても頻度はそれほど増加しません（脊椎や股関節の骨折は年齢とともに頻度が増加します）。

骨折を生じると手関節の腫れや変形が生じます。診断はエックス線撮影により行います。治療は骨折部の変形やずれがほとんどなければギプス固定を行います。骨折部の変形が強い場合やギプス固定後に変形が生じた場合は手術を行います。手術には鋼線で固定する方法、プレートとスクリュー（金属の板とねじ）で固定する方法、創外固定（鋼線を皮膚から出して固定する方法）などがあります。最近では金属の板とねじが固定される器具（ロッキングプレート）が開発されて骨粗鬆症が強い骨でも良好な固定ができるようになっており、術後のギプス固定もほとんど必要ないか、ごく短期間で外せるようになってきました。



（受傷時）



（手術後）

骨密度の測定を希望される方や、骨粗鬆症に関して質問のある方は整形外科医師に気軽にご相談ください。  
（文責 古川）